



もりんのあしあと

岡山県健康の森学園支援学校
令和8年 6月 15日発行

あじさいの花が雨に映え、鮮やかな色彩を見せてくれる季節となりました。

さて、新しい環境でスタートした1学期も折り返し地点を越えました。学校では、子どもたちが新しい教室や先生、友達との生活に慣れ、それぞれのペースで確かな一歩を歩んでいます。

「自分の気持ちを、自分なりの方法で伝えられるようになったこと」

「苦手なことに、少しだけ挑戦できたこと」

毎日の中にこうしたたくさんの「成長のあしあと」が見られ、私たち教職員も大きな喜びを感じる今日この頃です。

五感いっぱいの体験が、生きる力の根っこになる

～田植えを通して見えた確かな一歩～

5月22日、小雨の降る肌寒い中でしたが、健康の森学園恒例の田植え祭りが開催され、みんなで「あきたこまち」の苗を手植えしました。地域の方、交流を行っている学校・福祉施設の方、保護者の方をお招きし、小学部・中学部・高等部・施設の園生・職員の学園全員で田植えをしました。

実は、田んぼの中は子どもたちの感覚を心地よく刺激する宝庫です。足の裏に感じるニュルッとした泥の感触、水の冷たさ、泥が跳ねる音、お日様の光、生い茂る草や水の匂い。子どもたちは、こうした「五感」からの刺激をからだいっぱいに受け止めています。

それだけではありません。底が見えない不安定な泥の中で、倒れないようにグッと足を踏ん張ってバランスを取り、姿勢をキープしながら、手元では細かな苗をそっと植える。この一連の動きは、「自分の体を思った通りにコントロールする力」や「力加減を調節する力」を育てる、素晴らしい運動になります。

感覚が敏感で泥を触るのが苦手な子供たちにとっても、また逆に強い刺激が大好きな子供たちにとっても、この本物の自然がくれる刺激は、自分の体や周りの世界を安心して受け入れていくための、大切な心の土台となるのです。

